

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-513195(P2005-513195A)

【公表日】平成17年5月12日(2005.5.12)

【年通号数】公開・登録公報2005-018

【出願番号】特願2003-552888(P2003-552888)

【国際特許分類】

C 0 9 J 183/04 (2006.01)

C 0 9 J 175/02 (2006.01)

【F I】

C 0 9 J 183/04

C 0 9 J 175/02

【手続補正書】

【提出日】平成17年10月11日(2005.10.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

シリコーン粘着付与樹脂；

ポリジオルガノシロキサンポリ尿素コポリマー；および
可塑剤；

を含む感圧接着剤であって、

前記シリコーン粘着付与樹脂およびポリジオルガノシロキサンポリ尿素コポリマーが一般に、均一に分布されており、溶剤型である感圧接着剤。

【請求項2】

シリコーン粘着付与樹脂；

ポリジオルガノシロキサンポリ尿素コポリマー；

加工助剤；および

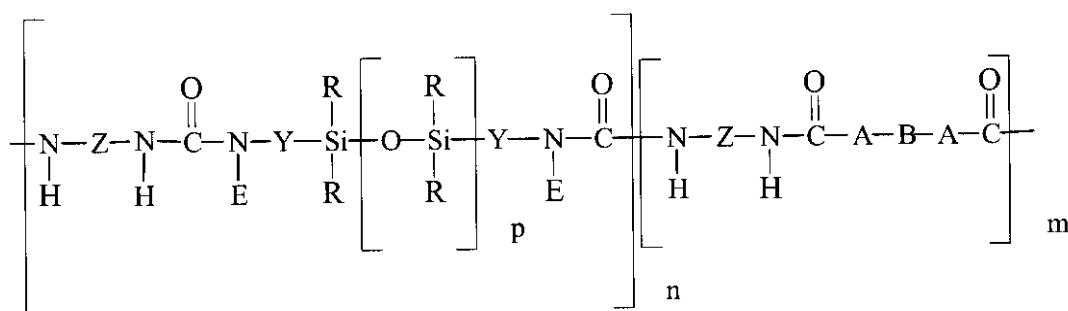
有機溶媒；

を含む感圧接着剤溶液。

【請求項3】

前記ポリジオルガノシロキサンポリ尿素コポリマーが、以下の反復単位：

【化 1】



(R はそれぞれ独立して、アルキル部位、ビニル部位または高級アルケニル部位、シクロアルキル部位、アリール部位、またはフッ素含有基であり；

Z はそれぞれ独立して、アリーレン部位、アラルキレン部位、アルキレン部位、またはシクロアルキレン部位である多価部位であり；

Y はそれぞれ独立して、独立してアルキレン部位、アラルキレン部位またはアリーレン部位である多価部位であり；

E はそれぞれ独立して、水素、炭素原子 1 ~ 10 のアルキル部位、フェニル、または Y を含む環構造を完成して複素環を形成する部位であり；

A はそれぞれ独立して、酸素または - N (G) - (G はそれぞれ独立して、水素、炭素原子 1 ~ 10 個のアルキル部位、フェニル、または B を含む環構造を完成して複素環を形成する部位である) であり；

B は、アルキレン、アラルキレン、シクロアルキレン、フェニレン、ポリアルキレン、ポリアルキレンオキシド、コポリマー、またはその混合物、または A を含む環構造を完成して複素環を形成する部位であり；

m は、0 ~ 約 1000 の数であり；

n は、1 以上の数であり；

p は、約 5 以上の数である)

を含む、請求項 1 又は 2 に記載の感圧接着剤。

【請求項 4】

シリコーン粘着付与樹脂；

ポリジオルガノシロキサンポリ尿素コポリマー；および
可塑剤；

を含む感圧接着剤であって、

前記シリコーン粘着付与樹脂およびポリジオルガノシロキサンポリ尿素コポリマーが一般に、均一に分布され、かつ

前記シリコーン粘着付与樹脂が、前記シリコーン粘着付与樹脂およびポリジオルガノシロキサンポリ尿素コポリマーの質量に対して、少なくとも約 55 wt% の量で存在する、感圧接着剤。

【請求項 5】

バックグと、その少なくとも 1 つの主面上に配置された請求項 1、2 又は 4 に記載の感圧接着剤と、を含む接着物品。

【請求項 6】

感圧接着剤を形成するのに有効な量で、シリコーン粘着付与樹脂と、ポリジオルガノシロキサンポリ尿素コポリマーと、加工助剤と、を合わせることを含む感圧接着剤を製造する方法であって、前記シリコーン粘着付与樹脂およびポリジオルガノシロキサンポリ尿素コポリマーが一般に、均一に分布される方法。